

乳幼児健診(9~10ヶ月)を受けられた方へ

はいはい、おすわり、つかまり立ちと赤ちゃんはあっというまに行動範囲を広げていきます。好奇心や探求心もいっぱい。いろいろな物をつかんだり、開けたりと自由に手も使えるようになります。そのため思わぬ事故をひき起こしやすい時期です。身の回りの安全を今まで以上にチェックしましょう。

また赤ちゃんの成長・発達には個人差があります。平均より大きいかどうかより少しずつでも順調に増えているかを見ましょう。ゆっくり、あせらず、育児を楽しんで下さい。

<起りやすい事故>

事故を未然に防ぐためのポイント



- ・誤飲 ————— 目についた物は何でも口に入れてしまいます。タバコ・硬貨・アメ玉・ピカツ・錠剤・化粧品・薬 etc. 赤ちゃんの手の届く所にはおかないよう注意しましょう。
- ・風呂やビニールプールのおぼれ ————— たった10cmの水深でも赤ちゃんはおぼれてしまいます。風呂の扉はいつもしっかり閉める。浴槽内に水を残しておかない。また少しの間だけからと目を離さないようにしましょう。
- ・やけど ————— 好奇心いっぱいの赤ちゃんにとって火は魅力的。ストーブ・ホット・ホットプレート・グラグググ沸いているやかんなども近づけない工夫をしましょう。
- ・転落 ————— 窓のそばやベランダには、踏み台になりやすいビールケース・イス・植木の台などをおかないようにしましょう。階段には、柵をつけましょう。ベビーカーからの転落にも注意しましょう。
- ・いたづらによる感電 ————— ハサミやピンで、コンセントの穴をつついたり、電気ホットの磁石付きコンセントを口にくわえて大やけどすることもあります。
- ・窒息 ————— よだれかけのヒモが何かに引っかかる(ヒモは首で結ばず、後ろで交差させる)、アイロンや掃除機使用後はコードを巻きとる。ビニール袋をかぶって窒息死した例もあります。

※赤ちゃんが安全に遊べる環境をつくるために、大人が事故防止の工夫をしっかりとしましょう。「あれもダメ、これもダメ」では、赤ちゃんもお母さんもストレスがたまります。